# 坐禅研修

天目山で研修を希望される方が年々増加しております。栖雲寺では本堂の坐禅だけでなく、様々な禅を体験していただけます。**石庭坐禅、食作法、法話、掃除、読経、勝頼公物語など**。時間も１時間～１日でご相談に応じます。企業研修・学校行事・お仲間・ご家族、内容もご希望に沿えるよう工夫します。お電話でお問い合わせください。

## みんなで経本

栖雲寺のオリジナル経本を作成中。般若心経のほか、読み易いお経、解り易いお経を選び編集した経本にする予定です。出版印刷の業者にお経を指定すれば簡単に経本は作成できる時代ですが、栖雲寺の経本はみんなの手で作りたいと考えています。すでに何名かの檀家さんに写経をお願いし書き終えていただきました。今後もみんなで少しずつ写経をして、世界に一つだけの手書きの経本を完成させる予定です。ご協力よろしくお願いします。

## 平成３０年の主な予定

| | |
|---|---|
| 3月18日～24日 | 春季彼岸 |
| 4月15日 | 摩利支天大祭 |
| 6月10日 | 天目山茶会 |
| 7月1日 | 石庭草刈り、境内清掃 |
| 7月27日 | 開山忌（業海本浄禅師の命日） |
| 9月20日～26日 | 秋季彼岸 |
| 10月8日 | 山門大施餓鬼会 |
| 11月10日 | 蕎麦奉納 |
| 11月10日、11日 | 宝物風入れ展・囲炉裏カフェ |
| 12月31日 | 除夜の鐘 |

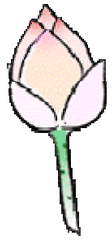
栖雲寺たより

# 天　目

第２５号

発行日

平成３０年１月１日



# 謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願いいたします

新しい１年が始まりました。皆様にとって素敵な１年となりますように、こころからお祈り申し上げます。

## 平成２９年　秋冬の報告

### 宝物風入れ展　過去最高の参拝者

住職を拝命した平成２１年以降、毎年細々と続けている秋の宝物風入れ展ですが、今年はＮＨＫの取材もあってテレビで放送してくれたこと、また新聞や広報等にも掲載してくれたことなどが要因となって、本当に多くの方にご来場を賜りました。過去最高の人出を記録。

私の手作り精進菓子は半日もたずに無くなってしまい、また周辺道路や駐車場は大混雑を引き起こしました。地域住民やご来山いただいた方にも多大なご不便をお掛けすると共に、ご満足いただけるおもてなしができなかったことはお詫びいたします。しかし「継続は力なり」の言葉どおり、毎年続けてきた効果はカフェでの施茶荷担者や、甲冑の展示協力など、人と物と両方の面で着実に表れております。

**平成30年は11月10日、11日**に蕎麦奉納・ふるまい・茶会と合わせて盛大に開催する予定ですので是非ご来山ください。

臨済宗建長寺派　天目山 栖雲寺　　住職　青柳真元
〒409-1201　山梨県甲州市大和町木賊122　TEL　0553-48-2797
http://www.tenmokusan.or.jp [栖雲寺]で検索　ブログ毎日更新

## 蕎麦奉納と天目山茶会

11月10日に「江戸ソバリエ神奈川の会」を施主とした蕎麦奉納の儀が行われました。伝灯庵の本尊様・開山様に玄蕎麦をお供えしたのち、本堂で摩利支天様に蕎麦切りをお供えしての御祈祷。法要後はすぐに蕎麦が茹でられ、参拝いただいた皆様にふるまわれました。

また境内の石庭会館では、真っ赤に色づいたもみじを眺めながらのお茶会も催されました。

## 管長様の墨跡展　閉幕

6月10日の天目山茶会を初日として開幕した吉田正道老師の喜寿ならびに管長職30年を記念した墨跡展は、5ヵ月の展示を終え11月12日の蕎麦奉納を千秋楽として閉幕いたしました。期間中は1000人を超える方にご来場を賜り、管長様の境涯を堪能いただきました。

吉田老師におかれましては、引き続き管長職をご継続されます。益々お元気でご活躍いただきますとともに、今後とも愚僧へのご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

## 台風による被害

今年は大きな台風が何度も接近・上陸し、栖雲寺にも被害がありました。

天然記念物「栖雲寺のシラカシ」は、途中から二股に分かれた枝がボッキリと折れ、幹は無事でしたが、かなり太い枝が伝灯庵横に倒れ込みました。私が留守の間に天目地区の檀家さんが全て片づけてくださり、御礼申し上げます。

実は建長寺でも大規模な土砂崩れが発生。ちょうどそこに停めてあった私の車やバイクも大きな被害を受けました。車は屋根が陥没、バックドアのガラスは粉砕。バイクも土砂に埋まり曲がってしまいました。何度見ても泣けてきます。日頃の行いの悪さから来たものかと反省もしましたが、ただ不幸中の幸い、人への被害は一切なく神仏のご加護に心から感謝です。

# 縁　　つながり合う心

東京都調布市　源正寺住職　　永井　宗明

息の白さの中に赤や金のお正月飾りが映える新年。昨年までのことを振り返ると、たくさんの出会いと別れが思い出されます。というのも、修行道場を出て和尚となり、以後大本山建長寺で約16年間教学部に務めさせていただいたからです。栖雲寺のご住職ともそのご縁で出会い、大変親しくさせていただきました。

教学部の主な仕事の一つに坐禅研修があります。16年の間には幅広い年齢層の方々と坐禅をしてきました。赤ちゃんを抱いたお母さんも、反抗期の中学生も、仏教を学び何度も坐禅を重ねている方も、坐っている時その瞬間は同じです。同じ空気の中、同じように坐る。一つの時間が過ぎると、皆さんがそれぞれの仏様のように、いいお顔になっているのを感じます。「坐った後どうでしたか？」と尋ねると、実はこんなことが...とご自身の体験談などをお話ししてくださる方も多く、時に感極まって涙される方もいらっしゃいました。坐禅は空っぽの時間です。呼吸以外なにもせず、心も体も空っぽにしているはずなのに涙が止まらない。生きていることの奇跡、感謝の気持ち、そんなご自分の仏心に気づいたことによるものでしょう。

子どもたちとの坐禅では、最初はザワザワしていても、いつの間にか静寂が訪れる。耳鳴りがしそうな程の不思議な感覚に驚く、それほどの静けさです。無垢な子どもたちは、教えなくてもちゃんと空っぽを体験し、仏心を感じているのです。

みんな様々な思いを巡らせて坐禅をしに来ます。しかし坐禅後の帰りがけなど、私に話をしてくださり、その会話から同じ思いに気がつける時があります。これはお寺の空気や雰囲気に包まれ、みんなで向かい合って坐ることで磨かれるものです。また坐禅をしたい、禅の心を知りたいとおっしゃっていただけた時、そして「つながり合う心」を実感できた時こそが和尚になってよかったと感じられる瞬間です。

心の悩みや迷いは鎮めようとしてもどうにも抑えられません。そんな弱い部分を巡らせて誰かに話すこと。そこから同じ思いに出会うことで、人と人とは繋がっていくのです。気の合う家族でも友だちでも一人は一人。人のこころは理解し難いもの。それでもお互い、分かり合い・助け合い・許し合い・支え合う力も持っています。もし誰かとぶつかり合いそうな時は、肩の力を抜いてそっと目を閉じゆっくり深呼吸をする、一度空っぽになるのです。その先に仏心は見得てきます。仏心に向き合い、育てていくのが坐禅であります。大掃除をした部屋のように、たった一つの自分の心「仏心」を優しく磨いてあげましょう。

調布から鎌倉までの長距離通勤で建長寺に16年間勤め、昨年末で退職された源正寺住職の永井宗明師に執筆賜りました。私とは修行した僧堂は違っても同期であったためすぐに意気投合し、家族ぐるみでお付き合いをさせていただきました。退職はとてもさみしく感じますが、源正寺でのご活躍をお祈りいたします。本当にお疲れ様でした。